

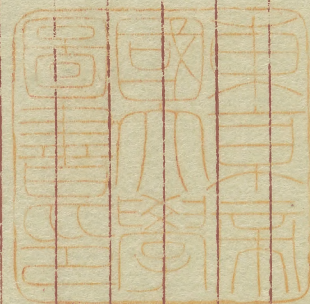
御用留

明治三年閏十月

東 京 庶 務 課
帝 國 大 學
部 門
五十年史料 37
161

明治二年閏十月

御用留



B 95447

東京大学

御用之儀在間唯二百才十字大少亟之内一頁冬
朝之有之也

庚午

閏十月二日

輯官

大學東校

抄

岩佐権大丞系 翻

往年蘭醫ポレヘ長崎ニ来リテ病院ヲ創建シ生徒ヲ教育セレヨリ

皇國ノ醫士始テ醫學ノ方向ヲ知レリ然レ氏未タ各科ノ淵源ヲ窺ヒ得ルナシレポレ歸リテ後ボードイン氏繼テ生徒ヲ教導シ疾病ヲ治療セリ来テ教ヲ受ル者治ヲ乞フ者其數枚舉ス可ラズ

皇國ノ醫學治法ボードイン氏ニ因テ一新スルヲ多シ其功一ナリ期滿テ歸國シ戊辰ノ冬再ニ徵ニ應シテ来リ大坂府ニ於テ醫學校及病院ヲ創立シ一年ニシテ概成ス其間學則ヲ定メ治効ヲ現シ入院院ノ者其數莫太ナリ其功二十ナリ

東京大学
次テ庚午五月更ニ兵部省病院ヲ創起シ軍事医
員ノ規則ヨリ心得マテ精細ニ教示シ其方向ヲ
定ム其功三ナリ期滿テ歸國セントテ東京ニ来
レリ生徒譽テ教示ヲ受レテヲ懇望ス然レ歸期
己ニ決スルヲ以テ再三辭スト雖レ尚キカズ止
コトヲ得ス暫ク留リテ教授セシコトヲ許ス是
ニ於テ生徒從學スル者殆ト三四百人病院ニ於
テ治療スルヲ尤暇ト東校モ亦ボードイン氏ニ
因テ醫學ノ進歩顯然トシテ著シ抑ボードイン
氏ノ學ニ於ケル最モ人身究理ニ精シク其術ニ
於ケル眼科ヲ以テ尤モ妙トナス其
皇國ニ来リ教示スルヲ長崎大坂東京三所ニシ
テ前後七年醫學進歩ノ今日ニ至ル實ニボード

イン氏ノ功カニ由ルヲ多シ其勲績ヲ深ク褒賞
セラレ終身賞典ヲ賜者也

庚午閏十月二日辨官正差出

兵部省より同出し通軍醫寮之系に是派りて
以役におかされしを不叶系にもなる去醫負
撰舉之系も東校より番任におかれ系に而こ
る旨の旨抑て後、於て成業の上より試業より
くお高し仕度方仕仕事より撰舉の規條に之中
り多系にもなる且又吾人不以程長よりなる
を長なる以採用におかれ系に而たりなる
之を調い学校に不掌より其の宋醫負撰舉之系に
都より番任におかれ系にもなる并少侍士より
之系より分於高役殿給支る百の元也
此の軍務より離り係し新編より出り系に
二人より時競討す務より代人より且軍醫より

不遍而人物も亦其竹内大物教の教師通へ緝
專務とて病流に於て一日を予の病歟人物との心
折交々柔厚の同案有しかば及んで此分軍醫を
南に人物の往來柔撫掌と云ふ兵部省より東
板に示されたと云ふ事也

庚午

閏十月四日

大學束校

辨官

少

不及三歲

吐秋來大坂、於て醫學校を創立せしむ。諸事大少
 亟に以て要経被。仰付是ヶ月定費二千金、以て少度
 相成せしむ。當經書籍等、定費より相調
 へ採回編せしむ。是後、當經より、定費二ヶ
 年中の間に見込より、以て改仰せしむ。是
 以後、經の當經より、定費より、以て改仰せしむ。
 而後、限より、以て改仰せしむ。是後、經の
 限り、改仰せしむ。是後、經の
 藏省より、採出來たるもの、子息より、以て改仰せしむ。
 且、又、當經より、採出來たるもの、子息より、以て改仰せしむ。
 より、當經より、採出來たるもの、子息より、以て改仰せしむ。
 以て採出來たるもの、子息より、以て改仰せしむ。

庚午

名臣

辨官

家

壬午

大學東校

副鳥參議殿

別紙人撰姓名書付而ナリ

常港内は病虎也建之系道日云建言止上受
以用途多し折柄金備之病虎也建之系以不
容易事と付く由文手控へ消し萬と手控りて
此今以程より出金に成官負飲科並種科并定費
以程患者入院するのいふ日以程に入用相成生
内より以貧者に施系亦く受石釣ヲ見込ア上占
少沙治お成領業止能然に受石釣以建方以以
下と以負階級元行向と様大車名系科を以て
凡るものを職掌と云ふは其の目的程を以て系
方と大學系校下少市向と云ふ後見込少折盡て
然少沙治お成領業止能然中上占也

元年

閏十月廿

神奈川縣

解官

中

別紙神奈川縣... 同書... 評決... 申... 間... 於... 由... 破... 切... 其... 用... 梳... 算... 早... 中... 出... 下... 方... 其... 後... 別... 紙... 出... 附... 貼... 相... 逢... 片... 也

庚午

閏十月廿

解官

大学东校

御用之儀其間内九日才十字大五之人各
翻之有之片也

二
庚午

閏十月八日

解
官

大學東校

相良確大五系 翻

大醫博士ドイン氏

何年我政府ノ徴ニ應レまり始メ長崎ニ於テ生
徒ヲ教授シ其規模ヲ創造シ再ニ大改ニ於テ生
院學械ヲ設ケ更ニ兵部省中軍醫ノ法則ヲ授傳
ス今茲歸國ノ期ヲ以テ東京ニ來ルニ及ニテ業
ヲ請ヒ治ヲ乞フ者頻ニ留滯セシコトヲ懇望ス
ルニ依暫ク歸期ヲ緩ニシ其乞ヲ許セリ抑我
國在留中沈痾ヲ起シ固疾ヲ療スル而已ナラス教
授術ノ方法ニ於テモ深切著實我國醫學日ニ進
歩スルニ至リ衆庶ノ幸福モ亦少ナカラス其功
大ナリト云ヘシ今ヤ將ニ國ニ歸ラントス固ラ
其賞トシテ雇中月給二十分一帛國ノ後終身可

給與事

年号干支月

太政官印

東京大学

別紙を通リボードインレリ被

仰出此係御確定ニ付其以展初年不お分其ニ付
以相才九字連ニ有酒中申成ニ有ニ候也 別紙に
別紙に申入也

庚午

閏十月十日

辨官

大学東校

別紙以相同時の五印うきし其也

ボードイニ被
仰出の文東列五宮在は因人壬戌之秋卯の
来 御為寅之秋歸國戊辰之冬再應徴在出
此段申上と也

原年

同十月十日

大学東校

解官

の年

東京大学

賞典案

大醫博ドイン

我國にて歐羅巴醫師を尊尚する久しと云
一と云ふ治癒法は徒ら書籍上の物に換換する
而已意味ありて其端倪と爲るべき正下のボン
ペ氏に倣て我 政府の徴するに應せしむる金貨
を振へるを新大の同り其功め長崎の院で生徒
を教授し其規程を創し再び大政府の學校と
設け病院と建て更なる兵部省の来るに及んで軍
中醫員の規則を立てるを定めて終る今茲
帰国力強をとて東京に來るに生徒の業と清
い病者も治を乞ふとのある歎きいん再とめ滞

せんと思ふことなり。星君七年の久しき時
心の既決しきことを以て背せし物も生徒等
の夢慕然止し。うづねありて又暫くあつて
教授せしことを評家より抑さすの我國在り中
沈病を起し。回復を療する。故筆をぬき。いそぎ
匠と教育する提撕董陶の方法を於ても深効着
實なるを感得せし。故是東洋の醫學術深遠と
し。要流洞まに。仁術不巧に於て養生の澤と
蒙る。し。お世堂ありし。と。今。乃。帰。装。を。促
んと。同。て。此。書。を。も。て。功。牌。を。換。へ。記。送。さ。る。也。

年月日

外務卿

澤田三任清原宣嘉

遇刺差出たボードイン。此貴典集之條大に據合
お碧居間一ト先ッ。四五却。サ。下。度。存。ハ。右。少。掛。合。と
め。乃。右。能。也。

庚午

閏十月十日

外務省

若今日注經大典醫方則此既未達乎入法化家之
 金匱清實北方之先大博士之方專務保法
 仰身在當典醫之所用方之常以京都爲之注
 所甘爲保者達金匱問以經以心爲中入法也

庚午

閏十月十日

穉
官

大學大正

二



東京大学

大坂醫學校より西洋に及ぼる文及器械書籍代金大
概五千兩内外にうね成事

庚午

閏十月十一日

大学東校

辨官

山平

東京大学

東京大学

別紙奉國執政系 四年續書公及臣之臣又
ホードイン系 四年續書の通一ノノ又且又同
人系 四年續書の決定ニ成テハ沙江ノ
別紙係奉國執政

庚午

閏十月十日

大学東校

恒隆大群友



米國前執政系 内々續書云と波底きい且ボ
ードイン系 内々續書云と波底きい且ボ
也

庚午

閏十月十二日

坊城大辨

大学未校

蘭醫鵬度英

勅語

詔

汝久ク我國ニ在テ善ク生徒ヲ教授セリ朕深
ク之ヲ嘉ニス

奉答

外臣久ク貴國ニ在リテ懇篤ノ待遇ヲ蒙
リ奉リ

天恩謝スル所ヲ知ラス

詔

汝歸朝近ニ在リ朕甚ク之ヲ惜シム千萬自愛
セヨ

東京大学

奉答

聖壽無疆四海泰平之ヲ祈リ奉ル

也
ボードイン奉答ハ
紙ニ通括スル

庚午

閏十月十七日

大学未校

仿海大辯殿

東大

東京大学

蘭醫ボーデン来り廿三日東京に足仕に自賞
典に家正急病に任に相成後を好也

庚午

同十月十九日

大学出板

辨官

小年

東京大学

神奈川縣府院下之其前引紙之通梳養法有巨細之
系ハ難波確室正内回縣岡市及市近印也

庚午

同十月十九日

大学本校

海官

以

東京大学

横濱病院職員

一和蘭醫師

内科

一人

月給四百元

外科

一人

同

一預取

大助教

一人

一同人

中助教

一人

一當直醫員

准大得業生

横濱住居之醫師ヲ撰舉ス

一同人

准中得業生

因前

一護身

月
拾
五
兩

二八

一藥局長

常直子華翁

老人

一
司藥生

月餘拾兩

三人

一 看病人

正實男子
老婦人

病人五人之
走人之割胃
如見賄之止
走而

神分二

一會計吏

主人

一圓奴

老人

一 附屬吏

二

去々月字額

教師月終職賃官祿の外、病者より相納居薬料并入院費用ヲ以大概院内費用とお整正す。系より徴けし金臨時入費として預メ相應の常備金設置及中。

但最幼者係番城菓品之彩酒一分一通ハ列座ニ
費用ニ在ルヲ也

營 繕

入院病者三百人と見込で、先以神々百人入之病院、梅
遠方來り抱き外々來之病者、於寮所々外泊も苦營
儀大概二万五千兩位と見込で抱き申

救急藥品

先以当分の二を西の買入に充てられ、一通を懸念する
後、追々買入に充てられ、充てられ

患者入院料

一上等	西洋人	二元半
	日本人	二分
一中等	西洋人	一元半
	日本人	二分
一下等	日本人	五分
	貧民	五分

外に極貧民に之を以て施行するに成る事

右入院料、薬食、その他に入費也

外来患者薬料

一水薬	五分
一散薬	五分
一丸薬	五分
一外用薬	五分
一點眼薬	五分

教師、入院中の病人、身分に依り診察料、手術料
を相納する、其後、病状を以て休養を異、全民政務
局に片寄る、其後、病状を以て

種痘は病院中より取り移るも身分を定
相与に謝金その他に掛る

東京大学

御用之儀は同権大由之内を負即引去
相うつすに於て

二年

同十月廿日

権官

大学本校

中

岩佐権大由系 嗣

東京大学

所用之儀は間ぬべき者なり
大正十一年八月
御用之儀は間ぬべき者なり

庚午

閏十月廿四日

解官

大学東校

岩佐権大丞兼 綱

東京大学

東京大学

大阪醫学校定額金に減額して通大蔵者より中
出た云々と通被 所月在間此所の達中入也

庚午

閏十月廿五日

弾官

大學

の年

東京大学

板地醫学校定額金に議する同地出後升と大延
板地橋大延と中延と云く去月相国は雪岩城古
籍未お備且當後向大概成述以後二ヶ年ヲ以
期と相し其後二ヶ年會計向を府に引渡して中
この議当二月申同校中延と改手も方々を
を通り算計し中延又ハ雪岩城代金并今後當
後入費定額と外列あり後中延と改手も方々を
う後あるべきに板地中延と改手も方々を
る成述と入費并雪岩城代金並中延と改手
面内外と分れ列あり後定額と改手も方々を
月と中延と改手も方々を改手も方々を
中延と改手も方々を改手も方々を

庚午

同十月廿日

大藏省

御官

少

附紙

申出之通う所中事

送付至出通所系院繪圖而入用ニ少在る間中事
治方々彼所院中入也

庚午

同十月廿日

大学東校

御官

少

東大
印
本
學

呂日普園留學紋

所付在池田西北延東夕高他處及所波在河延
及馬向在馬也

庚午

閏十月廿九日

辨官

大學

少

普園留學紋 所付在池田西北延東夕高他處及所波在河延
及馬向在馬也 馬向

東大
印
本
學

文久二年壬戌ノ秋我日本政府ノ徴ニ應ニ長崎
ニ来リ生徒ヲ教授シ其規律ヲ創建ニ再ヒ大阪
ニ於テ病院ノ學科ヲ設ケ更ニ兵部省中軍医ノ
法則ヲ授傳ス今茲歸國ノ期ヲ以テ東京ニ来リ
レニ業ヲ諸ヒ治ヲ乞フ者頻ニ留滞セリテ
望ス因テ暫ク歸期ヲ緩フシ其乞ヲ許セリ抑我
國在留中沈痾ヲ起シ痼疾ヲ療スルノミナラス
教授提撕ノ方法ニ於テモ深切著實我國醫學日
々進歩スルニ至リ衆庶ノ幸福モ亦少ナカラズ
其功大ナリト謂ヘシ今ヤ將ニ國ニ歸ラントス
因テ其賞トシテ別紙目錄ノ通り被遣候事
明治三年庚午

大日本政府

目録

金三子兩

以上

蘭醫ボードイレに由賞典より政府より列紙に通下賜の旨去月十月廿九日お達せ給ふ所少江列紙を類を係に依り達せし月也

庚午

十月二日

外務省

大学出役

少学

所用之儀を同明後七日才十字禮殿着出せしう改定也

庚午

十月廿日

神官

傳達所

是立中助敬
桐原中助敬
永松中助敬

是立大學中助教桐原大學中助教被任大助教
候間方以心得以中入官也
庚午

十月七日

解官

大學

中

東京大学総合図書館

所用儀法問明後十二日牙十二字後為人之間
三人系 相うくす也

庚午

十月十日

韓官

岩佐大學權大進殿
相良大學權大進殿

岩佐權大進殿 相

東京大学総合図書館

東京大学
蔵書印

相良大學権大臣
右勘問之沙方方々
彈正忠高被安置其間此方
あり達也

庚午

十月十日

辨官

大学東校

少

東京大学
蔵書印

島村大學少博士
左御勘問、所方、御調中居宅、謹慎羅在仕
探街達可方、也

庚午

十月十八日

辨官

大學

東京大学
総合図書館

所用之儀在間昂列系
相可多し也

庚午

十月廿日

初夜

岩佐大學權大丞夜

東京大学

東
大
学
学
部

所用之儀各間昂刻案
翻うつさし也

庚午

十月廿二日

以
御
官

岩波大学権太也版

東
大
学
学
部

東
大
學

去廿二日夜生徒共外出人名不詳先歸程刻限一
之取調至急可申出候事

庚午

十月

太政官

引紙通破

所去及間申入也

庚午

十月廿二夜

源官

大學東校

東京大學

東京大学総合図書館

世上賣藥と云ふは民部省より列侯に通ずる者
由見込来りて列侯の臣に及ぶ者なり也

庚午

土庫毎日

初官

大學

四年

此より後編と云ふは列侯の臣に及ぶ者なり也

民部省より同出賣藥と云ふは民部省より列侯に通ずる者
由見込来りて列侯の臣に及ぶ者なり也

東京大学総合図書館

樂害ふ少は元来賣棄しふ事は放ち後生に返檢
 査名実功害を礼許不確定嚴重取締めしなふ
 最初より見込こころしは得られは是次第より
 賣棄未済識るも取締は系未同出は何違賣
 棄之系い未取棄後には所付に當り系とある
 由未注てお成たりと追々檢査可きは又決嚴重
 取締う殘はは及山等なり也

庚午

十二月二日

大学

初官
 山

聖上御種痘來に十五日十六日と内都合此等可
 被所付各被所出民間其は筋目市通達うは
 下は派し下苗し日限は取極メるなりは下は
 華族し小兒あ人三日用迄しつは能り官砂匠は
 宜し通達つたりいこと

十二月二日

典醫

大学東校

山

東京大学

東京大学

松林大學大主簿
也
一昨五日推少史申付片岡方少治此為中達在

庚子

十二月七日

坂官

大學子

山平

東京大学

東京大学総合図書館蔵

海葱醋密

半封度

罌粟舍利別

半封度

右所用二相成五寸法廻一市度内十三日
申出及官所用之法成五寸法廻一市度内十三日
以上

十月十日

典醫

大學東校

中

右系示高階大典醫方日差廻

二庚午

十月十四日

東京大学蔵

東京大学総合図書館

林 中博士

別紙を通ず所治之石成之間口廻中入之石板地
口以達可方之世且西京在動被 所方之間に生
辰の達う多し標中入之也

庚午

十月十二日

源 官

大学

中

東京大学総合図書館

林大學中博士

任
中典醫

右
宣下候事

庚午

十二月

太政官

東京大学

東京大学

東京大学総合図書館蔵

林 中典 醫
別紙之通由沙治之成其旨由廻申入也

庚午

十二月十四日

辨官

大學

山中

東京大学

東
大
学
印

林
中
典
醫

京
都
在
勤
被

仰
付
任
事

庚
午
十
月

太
政
官

更
次
心
鑑

東
大
印

伊勢崎藩より別紙に通願出た旨を聞取てお申
けり。然るにその旨を以て後依りて別紙を添付し
一應及山打金也

4

十二月十七日

辨官

大學

山打

東大蔵書印

震動雷天僕

松本元坦

震動雷俊良

右之者當屬管下西洋醫師之種痘也多年後執
以治家而自種痘進之流以之種痘也其後乃
人民方救助自今種痘施行方彼乃其後乃
免許也其許沙以種痘此後乃其後乃

庚午

三月十日

伊勢崎藩

辨官

由

東大蔵書印

任博崎藩種痘之為い山多處之者成り御存片是
此種痘之許と云ふ藩知事種痘館へ申出に醫師
多秋并痘苗規則未だ授けず左を以て少少治るを
申う能はれ因に書面及申込印付也

庚午

三月十八日

大學

御官

山

金壹万円

長谷川中助教
石黒少助教

金五千円

土岐大得業生

右三人大中少舎長業務甚だ格別勉勵生徒卒業
進歩に實功顕著なり有由褒賞前記日録
に通下賜す事

小林三敬

高山松大

石坂維

中目齊

小松鈴司

東
大
印

山上道頭

塩谷退蔵

志村養朴

小原省三

青柳健齊

右之者共藏生徒取帙方有盡力波一且何是也
度英東城以來外來忠者容休通并書下河少之
左之者右之貴譽前記目錄之通下賜度後事

石坂逸藏

西牟田新女

青柳健齊

素原祥哉

校本文書

萩壁擴平

右南校法履之英人創傷之袖出張敷日夜骨折
乙付右以貴譽前記目錄之通下賜度後事

年未育引成之通為山賞養下賜夜凡仍而扣同也

庚午

十二月十日

大學子東校

副島冬議殿

東京大学
蔵
大
學

東京大学
総合図書館

此記録編輯は用お事多分市校ニありて上条五成
在規則書致至急入用有都白事を廻りて致也

庚午

十月十日

記録局

大學東校

中

此記録編輯は用お事多分市校ニありて上条五成
在規則書致至急入用有都白事を廻りて致也
及此答也

東京大学
総合図書館

庚午

三月十九日

大學東校

記録局

山平

